



近世日本絵画の諸相

Celebrated Four Seasons—An Aspect of Japanese Paintings from the 16th to the 19th Centuries

祝福された四季

1996年4月27日(土)—6月9日(日) 前期—4月27日(土)—5月19日(日)
後期—5月21日(火)—6月9日(日) 千葉市美術館

月曜日休館(但し4月29日開館、翌30日休館/5月6日開館、翌7日休館) 午前10時—午後6時(入館は5時30分まで)/毎週金曜日は午後8時まで(入館は7時30分まで)

観覧料:一般1000(800)円/大高生700(560)円/中小学生300(240)円()内は前売り及び30名以上の団体料金

主催:千葉市美術館、日本経済新聞社 協力:日本航空



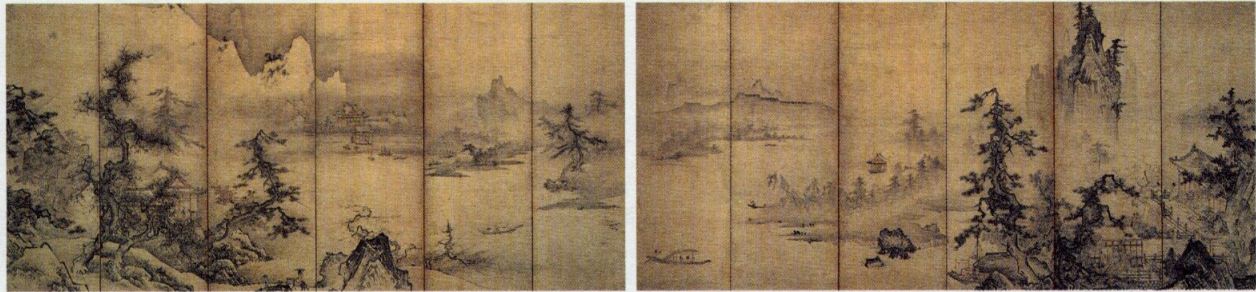
「春はあけぼの やうやうしろくくなり
ゆへにきはは…」と書き出しにはじまり、四季の風情を綴る「枕草子」第一段は、あまりに有名です。さらに和歌や俳句の例を持ち出すまでもなく、日本人の四季に対する美意識は鮮明であり、時に四季が揃ったことを喜び、そこにパラダイスをみる古来の思想とも密接に結びついてきました。文学に季語が織り込まれたように、四季を描き込むことは、日本絵画の最も根源的な様式構造を担っています。

「祝福された四季」展は、四季に対する強固なまでの美意識を手掛かりに、近世においてなお優れた展開をみせた四季表現の成立と発展の様相を、室町から江戸時代の絵画に探ります。

第一部 —— 八階展示室

近世初期の四季絵の諸相

一つの画面に四季を揃えて描き込んでしまうこと―四季山水・四季花鳥・四季草花といった主題が多く、二双屏風の形式で制作されています。これは、古代中世より引き継がれた四季絵の基本形であり、近世なお主流であり続けた主題でした。その諸例を導入として、一方で一季主題への志向が高まっていく様子、また物語絵や名所絵と四季絵の結び付きを、室町から江戸初期の絵画に見ていきます。

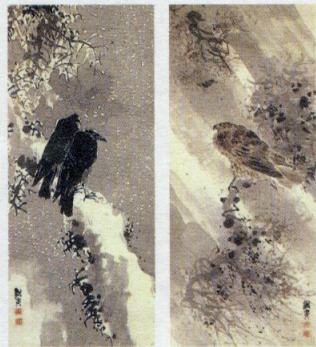


伝周文「四季山水図屏風」六曲一雙 静嘉堂文庫美術館蔵 室町時代(重要文化財)

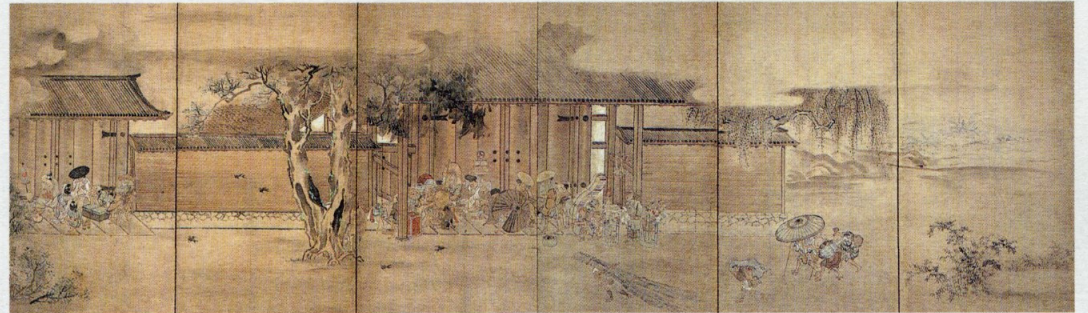


狩野元信「四季花鳥図屏風」六曲一雙 白鶴美術館蔵 室町時代(重要文化財)

与謝蕪村「鶯鴉図」双幅
北村美術館蔵(重要文化財)



英一蝶「雨宿図屏風」六曲一雙 パーク・コレクション



- JR千葉駅東口より徒歩約15分
- JR千葉駅前から京成バス 矢作台市営住宅・川戸行(のりば①)、小湊バス姉崎行(のりば③) 「広小路」下車徒歩1分
- 無料シャトルバス「チーパス」: JR千葉駅前を11:00~18:30の毎時00分と30分に出発(水曜日運休) 「中央区役所・美術館前」下車
- 京成千葉中央駅東口より徒歩約10分

[期間中の行事] (いずれも4月15日より電話および千葉市美術館 8F チケットカウンターにて受付)

講演会 会場: 千葉市美術館11階講堂(聴講無料)

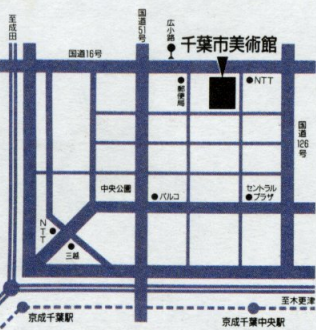
- 5月19日(日)午後2時より
講師: 小林忠氏(学習院大学教授)「近世絵画の四季表現について」
- 6月1日(土)午後2時より
講師: 武田恒夫氏(大手前女子大学教授)「描かれた季節」
- 特別講演会 5月22日(水)午後2時より
講師: オリヴァー・イムビー氏(オックスフォード大学アッシュモリアン美術館教授)
「王宮のための磁器;日本の輸出磁器とヨーロッパの邸宅での使用」(通訳付)

鑑賞会(レクチャー&ギャラリートーク) 会場: 9階講座室・展示会会場
時間: 午後2時より(金曜日は午後6時より)/講師: 千葉市美術館学芸員
5月3日(金・祝)/5月14日(火)/5月16日(木)/5月24日(金)/
5月29日(水)/5月31日(金)/6月4日(火)/6月7日(金) *申込順に各回20名まで受付

さや堂コンサート 会場: 千葉市美術館 1階さや堂ホール

- 5月10日(金)午後6時30分より 姜建華とシルクロードアンサンブル 大人2000円/大・高生1700円/中・小生1300円
 - 5月25日(土)午後2時より イソ弦楽四重奏団 大人1000円/大・高生700円/中・小生300円
- *申込順に150名まで受付。空席があれば当日参加も可。いずれもこのチケットで鑑賞会をご覧いただけます。
イベントに関する問い合わせは美術館まで

お問い合わせ先: 千葉市美術館 〒260 千葉市中央区中央3-10-8 電話043-221-2311(代)
展示会のご案内: NTTハローダイヤル 043-227-8600



第一部 —— 七階展示室

近世諸派の四季表現

江戸時代には様々な流派が興隆し、各派の画風により個性的な四季表現が行なわれるようになってきました。季節はさらに絞り込まれ、一季中の一刻を描く表現も発展します。江戸琳派・浮世絵派・円山四条派・文人画を中心に、四季絵の新たな展開をご覧ください。